

精神障害の人にもパソコン技術を身につけてもらい 在宅就業の機会や社会とのつながりを提供する

20年間精神障害者社会復帰施設に勤務する櫻井正則氏が立ち上げたNPO Leaves of Grass（略称LOG）は、精神障害者に低額でパソコン技術を指導するとともに、企業から受注した業務を彼らに割り振って、収入を得てもらうことを目的とする。

全国の精神障害・うつ病の通院者数は160万人を超える。彼らの多くは、働いて収入を得たいと望んでいる。しかし、大学新卒者でさえ就職難の時代、精神障害者の就業率は0・48%にすぎない。社会復帰支援をする授産施設の時給は良くても200円台で、自立した生活を目指すにはほど遠い。

無料のスカイプを使った授業

LOGのITスクールは、精神障害者本人は6カ月5千円、その家族は月額5千円で、どちらも週2回60分のレッスンが受けられる。この安さで提供できる理由は、ボランティアのコーチングス

タッフがスカイプを用いて授業をするからだ。スカイプは無料公開されているインターネット上の通信ソフトで、声で会話をしながら、生徒のパソコン画面をコーチが同時に見て指導することができ、コーチがその場にはいないデメリットを最小限に抑えられるのだ。

障害者支援施設が利用者に対しパソコンの講座を始めたいという場合にも、施設内にパソコンとインターネット環境が

あれば、LOGは利用者1人につき千円／月で対応する。

自信につながる収入を

就業支援は、LOGが在宅就業支援団体となり、企業などから仕事を受注する。ITスクールでパソコン技術を身につけた生徒や、もともとパソコン技術はありながらひきこもらざるを得なかった精神障害者に、その技術レベルにあわせて作

業を依頼し、報酬を支払う仕組みだ。いきなり何十万円は無理としても、パート並みの月収は十分に可能だ。そうなれば自信がつき、社会の中で自分らしく生きていける。就職にもつながるだろう。

不景気の中、継続的に仕事を受注するのは簡単ではない。しかし追い風もある。企業は一定の比率で障害者を雇用する義務があるが、在宅就業障害者（またはその支援団体）に仕事を発注した場合も特例調整金が出る制度があり、範囲が中規模企業へも拡大されてきた。

今年2月の出発式以後、ボランティアや地域生活支援センターへの説明会、一般へのPRイベントなど、着々と準備が進む。ITスクールも、生徒2人を対象に試験的に始まっている。スカイプによる会話の力は、コミュニケーションが不得意でひきこもりがちな生徒の、心の扉を開く効果も見えるという。

親が子の力を信じきれず尻込みするケースもあるし、重い障害を持つ本人が望まないのに無理して働くことはない。しかし、「働きたい、収入を得たい」と願った時には、前に進める選択肢のある社会にしたいと櫻井氏は強調する。

櫻井氏は10年間劇団活動に熱中していただけあって、インタビューも撮影中も笑顔が欠かす元気に対応してくださった。現在勤務する精神障害者社会復帰施設へは父親の勤めでたまたま就職したのだが、授産施設のDTP編集部門立ち上げやパソコン教室指導員の経験がLOG設立につながっている。東京都の「心の健康フェスティバル」の総合プロデューサーを、ボランティアで10年間務めた。

■受講希望、ボランティアコーチ、業務の依頼など
電話：03-3307-8528
E-mail：log2011@hotmail.co.jp
ホームページ：http://log.jpn.org

シリーズ

社会起業家

特定非営利活動法人 Leaves of Grass

理事長

櫻井正則

氏に聴く